**OAA名古屋支部３月例会報告**

**2024年３月９日 (土)**

**小牧市　今枝 優**

**１　最近発見された彗星の軌道要素（前回からの続き）**



* **彗星二つ紹介**

**(1) C/2024 A2 (ATLAS)**

東京都の佐藤英貴氏によって2024年1月16日（UT）にチリのiTelewscopewを使用して行われたfollow-up観測により、地球近傍小惑星候補天体の中から彗星活動が見つかり彗星として登録された。

**C/2024 A2 (ATLAS)**

 　T = 2024 Apr. 28.8970 TT

e = 0.941771

**P/2024 A2**

q = 1.881657 au

ω= 295.5746 °

**γ**

Ω= 78.1663 °

i = 119.1110 °

 P= 184 年

**降**

**×**

　　 r(Ω) = 2.60 au

r(℧ ) = 6.16 au

Q=62.7 au

177 observations from 2024

Jan. 15 to 2024 Feb. 29

軌道図はNASA/JPL Small-Body Database Lookup の Orbit Viewerにて作成

mean residual = 0.32″

**(2) C/2024 C2 (PANSTARRS)**

2024年2月1日(UT)に、ハワイのマウイ島ハレアカラ山に設置されたパンスターズ２望遠鏡のサーベイ観測で得られたイメージの中からR. Weryk氏によって発見された。

**C/2024 C2 (PANSTARRS)**

Epoch 2025 Mar.26.0TT

****= JTD 2460760.5

T = 2025 Mar.18.3793 TT

e = 0.446480

q = 8.985421 au

**昇**

**×**

ω= 87.9162 °

**γ**

Ω= 66.4280 °

i = 27.2816 °

**C/2024C2**

　　 　　P= 65.4 年

r(Ω) = 12.79 au

r(℧ ) = 13.21 au

Q=23.5 au

54 observations from 2023

軌道図はNASA/JPL Small-Body Database Lookup の Orbit Viewerにて作成

Dec. 25 to 2024 Feb. 11

mean residual = 0.25″

 ※水星から海王星の８惑星の摂動を含む。

**２　短周期彗星の分類について**

現在短周期彗星は大きく2種類に分類される。厳密なものではないようで、分類方法によって異なることもある。

①木星族彗星（Jupiter-family comets）

黄道面に近いところを公転し順行軌道を持つ。又は、ティスラン・パラメーターが2より大きいもの。（660個程）

②ハレー型彗星(Halley-type comets)

軌道傾斜角が大きく、公転周期が20年から200年の間にあるもの。又はティスラン・パラメータが2より小さいもの。（120個程）

**《ティスラン・パラメータ》**

$　　　　T\_{P}=\frac{a\_{P}}{a}+2\cos(ⅈ\sqrt{\frac{a}{a\_{P}}\left(1-ⅇ^{2}\right)})$

ap:摂動天体の軌道長半径　　a,i,e :小天体の軌道長半径、軌道傾斜角、離心率



$$ $$

◆ウェブサイト「List of Jupiter-Family and Halley-Type Comets」ではテイスラン・パラメータのみで分類されている。（上表の1P、55P、109Pはこのリストによる）